

第四十五回 帝國議會
衆議院

信託法案外四件

信託業法
擔保法
附社債信託法
不动产登記法
非訟事件執行法
徵稅法
相繼稅法
印紙稅法
日本銀行法
北海道銀行法
琉球銀行法
拓殖銀行法
正中銀行法
中華銀行法
中國銀行法
華南銀行法
正中改正法
中華改正法
中國改正法
華南改正法
正中法律案
中華法律案
中國法律案
華南法律案

委員會議錄(速記)第二回

○ 指田委員長 ソレデハ私カラ御指名申シマス——上田兵衛君、鈴木久次郎君、兩君ニ御願致シマス、尙ホ此際新ニ付託セラレマンシタ所得稅法中改正法律案外數件ノ提案ノ理由ヲ政府當局ヨリ説明ヲ請ヒタイト思ヒマス、如何デスカ
スレバ、此席カラ御指名申上ゲタイト思ヒマス、如何デスカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ】
○ 松本政府委員 信託法案制定ニ伴ヒマシテ、所得稅法外三件ノ稅法改正ノ要點ヲ大要説明致シマス、先以テ所得稅カラ申上ゲマス、信託法ノ規定ニ依リマスト、信託財產ハ受託者ノ所有スルモノノデアリマスケレドモ、其信託財產ヨリ生ジマスル所ノ所得ハ、結局受託者ニ歸屬スルモノニアリマスカラ、所得稅ヲ課スル場合ニ於キマシテハ、受益者ガ信託財產ヲ有スルモノト看做シマシテ、受益者ニ課稅スルコトト致シマシタ、隨テ受託者及委託者ニハ課稅シナイ、但此例外ト致シテ受益者ガ不特定ナルトキ、又ハ未ダ存在セザルトキニハ受託者ニ課稅スル、斯様ニ致シテ居リマス、次ニ此受益者ガ信託財產ヲ所有スルモノト、所得稅法デハ認メマスルカラ、其財產ヨリ所得ヲ生ジマシタ場合、受託者ガ其所得ノ一部分ノミヲ受益者ニ引渡シマシタ場合ニ於テハ、又ハ其全部ヲ或ル時期マデ保留致シテ置キマシテモ、兎モ角モ其所得ノ全部ニ對シテ受益者ノ所得ガアルモノト看做シテ課稅ヲスルコトニ致シマシタ、其次ニ受益者ガ法人デアリマス場合ニ於テハ、受益法人ノ事業年度内ニ受ケマス又ハ其全部ヲ或ル時期マデ保留致シテ置キマシタ場合ニ於キマシテハ、受託者ノ收入支出ヲ直ニ受益者ノ收入支出ト認メシテ、其差額ヲ所得ト算定致シマス、尤モ受益法人ガ受託者ニ支拂ヒマスル所ノ信託財產管理ニ要スル報酬等ハ、無論之ヲ損金ト認メマス、次ニ受益者ガ個人デアリマシタ場合ニ於キマシテハ、受託者ノ收入支出ヲ直ニ受益者ノ收入支出ト認メマス、尙ホ信託財產管理ニ要シマシタ所ノ受託者ニ對スル報酬、之ハ之ヲ收入ヲ得ルニ必要ナル經費トシテ相當控除致シマス、尤モ此一般所得ノ計算上必要ナル經費ハ控除シナイ、費目ニ付キマシテハ其報酬ヲ控除シナイ事ハ勿論デ

アリマス、ソレカラ受益者ガ信託財産ヲ有スル者ト認メマス
ル結果、信託財産ガ國債アリマスレバ、前二箇年ノ平均ニ依ツテ課税致
シマス、株式デアリマスレバ、四割ヲ控除シテ所得額ヲ計算致
シマス、斯ノ如ク總テ此受益者ガ恰モ固有ノ財産ヨリ生ズル
所得ト同様ニ取扱フテ、所得額ヲ算定致スコトニ致シマシタ、
但此受益者ニ課税スルト云フコトヲ原則ト致シマシタガ、又
先程御話致シマシタ通り、受益者ガ若シ不特定ナルトキ、又
ハ受益者ガ未ダ存在セザルモノデアリマスレバ、之ニ課税
スルコトガ出來マセヌカラ、此場合ハ已ムヲ得ズ受託者ヲ
受益者ト看做シテ、受託者ニ課税スルト云フコトニ致シマ
シタ、此場合ニ於キマシテ其課税致シマス所得ハ、受託者固
有ノ所得トハ區分致シマス、又同一ノ受託者ニ對シテ數個
ノ信託ガアリマス場合ニ於テハ、各々信託毎ニ之ヲ區分シ
テ、別々ニ其所得金額ヲ決定シマス、其結果ニ適用スベキ
税率、又ハ課税ノ最低限度ヲ適用シマスニ付テハ、各々獨立
ノ所得ト看做シマス、隨ヒマシテ此所得ニ付テハ受託者ノ
同居家族ニ關スル特別控除ヲ認メナイトカ、或ハ同居家族
ノ所得ハ合算シテ税率ヲ適用スルト云フコトハ致シマセヌ
コトニ致シテ居リマス、ソレカラ此場合ニ於キマシテモ、受
託者ガ法人デアリマスレバ、法人ノ計算ニ從ハナケレバナ
ラヌヤウナ次第デゴザイマスルケレドモ、此種ノ信託ニ付
キマシテハ、受託者タル所ノ法人ノ固有ノ資本金ノ運用ニ
依づテ生ズル受託デモアリマセヌシ、又受託者ハ實際ノ擔稅
者デモアリマセヌカラ、此場合ニ於キマシテハ受託者ガ個人
人デアラウト、法人デアルトニ依ツテ、此課税ヲ區分スルノ
必要モゴザイマセヌカラシテ、全部是ハ第三種所得ト看テ
ニ付テハ是ハ、別ニ法文ヲ設ケナイデ一般ノ解釋ニ從フテソ
レゾ可否ノ決定ヲ致シテ行カウト思ツテ居リマス例ヘテ
財産カラ生ズル所ノ所得ニ關スル事柄デアリマスケレドモ、法
言ヘバ一時ニ財産ヲ與フルト云フコトニ於キマシテモ、法
信託財產其モノヲ管理處分シテ行キマス場合ニ於ケル所得
人ナレバ課税ヲ致シマスケレドモ、個人ナレバ課税致シマ

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| ○指田委員長 | 引續イテ開會ヲ致シ | 信託法案
信託業法案 |
| 臺灣銀行法中改正法律案 | 日本興業銀行法中改正法律案 | 擔保附社債信託法中改正法律案 |
| 北海道拓殖銀行法中改正法律案 | 印紙稅法中改正法律案 | 不動產登記法中改正法律案 |
| 臺北銀行法中改正法律案 | 相續稅法中改正法律案 | 非訟事件手續法中改正法律案 |
| ○指田委員長 | 引續イテ開會ヲ致シ | 所得稅法中改正法律案 |

セヌ、尙ホ此外ニ法律ニ規定致シテ居リマスコトハ、所得額ヲ計算致シマスル参考材料トシテ、受託者カラ信託ニ關スル所ノ計算書ヲ政府ニ於テ微スルト云フヤウナ規定ヲ設ケマシタ、又其計算書ヲ提出シオカツタ場合ニ於テハ相當ノ制裁ヲ加ヘル、斯様ニ致シテ居リマス、次ハ相續ノ事ニ付テ説明ヲ申上ゲマス、信託ノ當事者カラシマスルト云フト三ツアリマシテ、委託者ト受託者ト、受益者ト三ツアリマスルガ、其中デ先ヅ受託者ニ付キマシテ相續ヲ開始シタ場合ニドウナルカト云フコトヲ申上ダマスガ、受託者ハ信託財產ノ所有者デアリマスケレドモ、信託法ニハ信託財產ハ相續ルカト云フコトヲ申上ゲマスレバ、受益者ハ信託財產ハ有財產ニハ屬シナイト云フ規定ガアリマスカラ、受託者ガ相續ヲ開始シタ場合ニ於ケル相續稅課稅ノ場合ニハ所得ニアリマセヌ、其次ニ受益者ガ相續ヲ開始シタ場合ニハドウナルカト云フコトヲ申上セバ、其元本ガ歸屬權デモ、又ハ其受益權デモ、各々之ヲ相當價格ニ見積メテ課稅スルコトニ致シテ居リマス、其次ニ委託者ニ付テ相續ノ開始ヲシタ場合ニハドウヌカラ相續開始ノ場合ニ於キマシテハ、其權利ガ一ノ詳シク申セバ、其元本ガ歸屬權デモ、又ハ其受益權デモ、各々之ヲ相當價格ニ見積メテ課稅スルコトニ致シテ居リマス、斯様ニ觀察致シマスト、一體ハ委託者ニ付テハ利ガ一ノ詳シク申セバ、其元本ガ歸屬權デモ、又ハ其受益權デモ、併シ委託者ガ他人ヲ受益者トシテ此信託行爲ヲ設定別問題デス、斯様ニ觀察致シマスト、一體ハ委託者ニ付テハ相續稅ヲ課スルト云フ問題ハ生ジナイヤウデアリマスケレドモ、併シ委託者ガ他人ヲ受益者トシテ此信託行爲ヲ設定シマスコトハ、恰モ他人ニ財產ヲ贈與スルト等シイ結果ヲ生ジマスカラ、ソレデ信託行爲ヲ設定シマシタナラバ、贈與ノ例ニ準シテ相續稅ヲ課スルト云フコトニ致シマシタ、ソレヲ委シク申シマスレバ、先づ第一ノ場合ニ於キマシテハ、相續ガ開始スル前、一年以内ニ信託ヲ設定シマシタナラバ、現行相續稅法ノ第三條ヲ適用シマシテ、其信託財產ノ價格ヲ相續財產ニ加算シテ相續稅ヲ課スルト云フコトニ致シマシタ、其次ニ信託ノ受益者ガ委託者ノ推定相續人力、又ハ分家ノ戸主、又ハ家族デアリマスレバ、現行相續稅法ノ二十三條ヲ適用シマシテ、遺產相續ノ開始ガアッタモノト看做シテ、ソレドム相續稅ヲ課スルコトニ致シマシタ、但シ此場合ニ付キマシテハ、現行相續稅法ニ於キマシテ、不動產及船舶ノ登録稅ノ方ニ於キマシテ相當重稅ヲ課スルコトニ致シテ置信託ガアリマシタ場合ニ於テハ相續稅ヲ課セナイデ、別ニ課スルニ付キマシテモ、是ト同ジヤウニ不動產及船舶ノ登録稅ガアリマシタ場合ニ於テハ相續稅ヲ課セナイデ、別ニ登録稅ノ方ニ於キマシテ相當重稅ヲ課スルコトニ致シテ置キマシタ、相續稅ハ先づ大體ソレダケト致シマシテ、次ハ登

信託法ヲ申上ダマス、信託ノ登記若クハ登錄ヲ要スルコトハ
信託法ノ規定ニ明カデアリマスガ、此信託ノ登記登錄ニハ二
通リアリマス、一ツハ單ニ信託其モノ、登記又ハ登錄ト、今
一つハ信託行爲ニ依ッテ其財産權ノ移轉ヲ登記又ハ登錄ス
ル場合ト二ツアリマス、其前者即チ信託其モノノ登記又ハ登
錄ニ付キマシテハ、比較的輕イ登記税ヲ取ルコトニ致シマ
シテ、其金額等ハ此税法ニ掲ゲテ居ル通りアリマス、之
ニ反シテ信託ニ依ッテ財產權ノ移轉ヲ登記又ハ登錄致シマ
ス場合ニ於キマシテ、船舶若クハ不動產以外ノ權利ノ移轉
デアリマスレバ、現行登錄稅法ノ各條文ニ規定スル稅率
ヲ適用スル積リデアリマス、之ニ反シテ船舶若クハ不動產
ノ權利ノ移轉ノ登記、若クハ登記ニ付キマシテハ、相繼稅法
ノ規定ト同ジャウニ、是ハ比較的重イ稅率ヲ以テ課稅スル
コトニ致シテ置キマシタ、是ガ大體ノ趣意デゴザイマス、其
他此信託ニ付キマシテモ、各種ノ財產權ニ亘リテ登記登錄方
アリマベルカラ、ソレハ各條文中稍々類似シテ居ルモノト
權衡ヲ取リマシテ、ソレドモ適當ノ稅率ヲ以テ課稅スルコ
トニ致シテ置キマシタ、尙ホ特ニ最後ニ申上ゲテ置キマス
事ハ、此登錄致シマス場合ニ於テ、特ニ免稅スル場合ガ三ツ
程アリマス、ソレハ其登記又ハ登錄スペキ信託財產デアリ
マシテ、其信託利益ノ全部ガ悉ク委託者ニ歸屬スルト云フ
ヤウナ場合ニ於キマシテハ、登錄稅ハ免除スル、斯ウ云フ規
定ニ置キマシタ、ト申シマスノハ、委託者ガ其信託財產ノ歸
屬權モ亦收益權モ自己ガ享受スルト云フヤウナ場合ニ於キ
マシテハ、形式上財產權ノ移轉ガアルヤウデアリマスケレ
ドモ、實質上カラ申シマスト、自己ノ財產ヲ受託者ニ管理
シテ貰ウテ其收益權ヲ得ルニ過ギナイヤウデアリマスル
カラ、實質上ニ於テハ財產權ノ移轉ガナカリシモノト看做
シテ、此場合ニハ登錄稅ハ掛ケナイト云フコトニ致シテ置
キマシタ、第二ノ場合ハ信託ニ付キマシテ受益者又ハ歸屬權
利者ガ、其財產權ヲ取得シタ場合ノ登記又ハ登錄、此
場合ニモ登記稅ハ掛ケナイ、委託者カラ受託者ニ權利ガレ
移轉スル場合ニ、相當登錄稅ヲ課シテ居リマス、而シテ受託
者カラ受託者ニ移ルトキニ一遍登錄稅ヲ課シテ居レバ、
委託者カラ受託者ニ權利ガ移ル場合ニ其權利ガ移轉スルト云フ
コトハ、其信託ノ結果ニ過ギナイ、言葉ヲ換ヘテ言へバ事實
上其權利ヲ引渡スニ過ギナイノンデアッテ、既ニ信託ニ付テ委
託者カラ受託者ニ移ルトキニ一遍登錄稅ヲ課シテ居リマス、
アリマス、受託者ガ更迭スル場合ニ其權利ガ移轉スルト云フ
ル必要ナシト云フノデ、此場合ハ免稅スルコトニ致シマシ
タ、今一ツ免稅スル場合ハ信託ノ受託者ガ更迭スル場合デ
ラ言ヒマスルト權利ノ移轉ガアリマスケレドモ、併ナガラ

テ行クト云フダケデアッテ、本當ニ實質上ノ權利ノ移轉ガア
タモノトハ趣ヲ異ニシテ居ルト看做シマスカラ、此場合ニ
於テハ矢張算稅ヲ課セナイト云フコトニ致シテ置キマシ
タ、先づ算稅ニ付キマシテノ大體ノ改正要點ハ右ノ通リ
デアリマス、其次ニハ印紙稅ニ付テ説明致シマスルガ、信託
行為ノ設定ニ付キマシテハ、矢張權利ノ移轉ガアリマスル
カラ、若シ印紙稅法ノ原則カラ申シマスト、其權利價格ノ万
分ノ五ニ相當スル印紙ヲ納メシメルノガ當然デアリマスケ
レドモ、併シ又一方カラ言ヒマスルト、信託行為ニ依ル權利
ノ移轉ハ、普通ノ場合トハ自カラ趣ガ異ニテ居ル、ゾレデ之
ニ對シテ万分ノ五ノ印紙稅ヲ課スルト云フコトハ、少シク
酷ニ失スルト云フ意味カラ、信託行為ニ關スル證書ニ付キ
マシテハ、特ニ定額稅トシテ三錢ノ印紙ヲ納メシムルコト
ニ規定致シマシタ、是ハ信託行為ニ關スル證書デアリマ
ス、大體右説明シタ通りデアリマスガ、尙も説明ノ足ラザル
點モアリマセウシ、未ダ説明ノ足ラズシテ、御判リニナラヌ
等ノ事ニ付キマシテハ、御質問ニ應ジテソレト御答スル
積リデアリマス

○鈴木(富)委員 所得稅法中改正法律案ニ付キマシテ一寸
御尋ヲ致シマス、改正法律案第二條ノ「第一項ニ依リマ
ヌト云フト「受益者不特定ナルトキ又ハ未ダ存在セサルト
キハ受託者ヲ以テ受益者ト看做シテ所得稅ヲ賦課ス」ト云
フコトニ規定サレテ居リマスガ、是ハ已ムヲ得ザル事情ノ
爲ニ所得稅法ノ大精神デアリマス綜合課稅主義ヲ「寸破
タ形ニ見エルノデアリマス、ソコテ若シ受益者カ特定シタ
ルトキ、又存在セザル受益者ガ存在スルニ至ラタルトキハ、
如何ニナル御積リデアリマスカ、是ハ矢張放任シテ綜合課
稅ノ例外トモ稱スペキモノヲ、源泉課稅ニナツカ儘デ其儘放
任スル積リデアリマスカ、此點ヲ伺フテ置キマス

○松本政府委員 不特定人トナリ、未存在ノ者ガ
存在スルヤウニナリマシタナラバ、ソレハ特定スル受益者
トナリマスカラ、其場合ニハ受益者ニ對シテ課稅スルノデ
アリマス

○鈴木(富)委員 サウスルト一部分ハ受託者ガ出シ、尙ホ
綜合ノ爲ニ未納ノ分ヲ生ジマスカラ、其未納ノ分ハ後デ追
徵スルト云フ形ニナリマスカ

○杉本政府委員 只今ノ御質問ハ少シ諒解シ兼ネマスカ
ラ、モウ一遍……

○鈴木(富)委員 斯ウ云フ事ニナラウト思ヒマス、受託者
ニ課稅スル時分ニ於テハ、源泉課稅ニナツテ綜合シナイ、是
ハ間違ナイデセウナ

○杉本政府委員

其通リデス

○鈴木(富)委員 而シテ受益者ガ税ヲ納メル時分ニ於テハ、自分ノ一切ノ所得ヲ綜合シテ納メルコトニナルモノト解説シテ宜イノデアリマスカ

○杉本政府委員 其通リデス

○鈴木(富)委員 サウスルト第二項ノ場合ニ於テハ、其處ニ税額ノ差ガ生ズルヤウニ思フ、受益者未ダ特定ナラザルトキ、又受益者未ダ存在セザル場合ニ於テハ、税ヲ納メ而シテ其税ダルヤ本改正案ノ第十六條ノ一ニ依リマシテ、各信託毎ニ之ヲ納メルコトニナリマスト、源泉課税ニナッテ綜合課税ニナラナイ、若シ其税ガ受益者カラ納メルト云フ場合ニハ、其他ノ所得ハ綜合シテ納メルコトニナリマスカラ、其税率ト云フモノハ違フコトニナル、此ニ於テ受託者ガ納メル所ノ税率ト、受益者ガ納メル所ノ税率ノ差ヲ生ズル次第アリマスカラ、其差額ト云フモノハ其借放任ナサルノデアルカ、或ハ追徴ナサル御積リデアルカ、之ヲ承リタイ

○松本政府委員 受益者ガ未ダ存在シナカツトカ、特定ニナラナカツ時代ノ所得税ハ、ソレ限り打切ル積リデアリマスカ

○鈴木(富)委員 打切ルト云フコトニナルト、少シク綜合課税ノ主義ヲ破壊スルコトニナリマス、併シソレハ詰リ徵稅ガ面倒ダト云フ趣意カラサウ云フコトニ致シタデゴザイマスカ、之ヲ一寸伺ウテ置キマス

○松本政府委員 受益者ガ特定デアルトカ、或ハ又存在シナイト云フトキニ於テハ、總テ受益者ニ對シテ課税方法ガアリマセスカラ、其場合ニ於テハ受託者ニ課税スル外ナイ、斯ウ云フコトデ受託者ニ課税スルコトニナッテ居ル、ソレカラ一定ノ期間ヲ過ギテ三年経タトカ五年経テ、受益者ガ特定スル若クハ存在スル場合ニハ、収益者ニ課税スルコトニナリマス、既往ノ分ニ付テハ所得税ハ完全ニ納メタモノト看做シテ打切ル積リデアリマス

○鈴木(富)委員 ソレハ能ク御相談願ハヌト云フト、兎ニ角稅額ニ差ヲ生ズルノデアリマスカラ、明確ニセヌト唯徵稅ガ困難デアルト云フ趣意デアルナラバ……

○指田委員長 大抵政府ノ答辯ノ趣意ハ分タヤウデスガ

○鈴木(富)委員 趣旨ハ分リマシタガ、打切テシマウト云フコトニナルノデスナ……

○指田委員長 ドウデセウカ、御相談デスガ、所得税外四件デスガ、本案ニ付テハ今説明ヲ承タバカリデアリマスカラ

○指田委員長 大抵政府ノ答辯ノ趣意ハ分タヤウデスガ

カ……

○黒田政府委員 新ラシク付託ニナリマシタ日本興業銀行法中改正法律案竝ニ臺灣銀行法中改正法律案北海道拓殖銀行法中改正法律案、此三案ニ付マシテ、大體ノ御説明ヲ申上

ゲタイト思ヒマス、是等ノ三銀行ノ法律中ニハ御承知ノ通り信託ノ業務ト云フ事ガ規定サレテアルノデアリマス、然ルニ此信託ノ業務ト云フ言葉ハ、今日ニ於キマシテハ非常ニ明瞭ヲ缺イテ居ルノデアリマスマレドモ、其中ニ擔保附社

債ノ信託ハ勿論ノコト、其他一般ノ信託、或ハ或範圍ノ所謂今日行テ居ル信託ト云フヤウナ業務ヲ含ニテ居ルヤウニ

見テ居ルノデスガ、然ルニ今度提案ニナッテ居リマス信託業法ニ於キマシテハ、一般ノ信託業務ハ他ノ業務——所謂信

託業法ニ依ル信託業務ハ、他ノ業務ヲ兼營スルコトハ出來ナイト云フコトトナッテ居リマスカラ、此主義ニ依リマシテ特別銀行ニモ矢張、一般ノ信託ヲ禁ズルト云フコトガ、信託業法ノ趣意ニナッテ居ルノデアリマス、其爲ニ本改正ヲ致シテ、特別銀行ニハ一般ノ信託業務ハ許サナイト云フ事ニ致シタノデアリマス、尙ホ此擔保附社債信託ニ付キマシテハ、信託法ニ付キマシテモ、信託業ト擔保附社債信託業ヲ併セテ營ムコトヲ認メテ居ル、擔保附社債信託ハ、今日ノ銀行ニ經營ヲ見テ居ルノデアリマスガ、此點ニ付キマシテハ先日モ意見ガアリマシタヤウニ、信託業法ニ他業ノ經營ヲ禁ジタナラバ、銀行ニモ擔保附社債信託ヲ禁ジナケレバ、主義ガ一貫シナイデハナカト云フ議論モアリマシタケレドモ、之ヲ禁ジナケレバ一貫ハ致サナカモ知レマセヌガ、併シ今日ノ状況カラ見ルト云フト、今日擔保附社債信託ヲ營ンデ居リマスモノハ二十餘アルノデアリマス、總テ銀行デアリマシテ、銀行以外ニハ擔保附社債信託ハ今日無ノノデアリマス、今日ノ状況カラ見マシテ、直ニ之ヲ銀行ニ嚴禁スルト云フコトニ致シマスルト、擔保附社債信託ヲ營ム會社ト云フモノハ無クナルト云フコトニナルノデアリマス、将来信託會社ガ非常ニ發達シタ曉ニ於キマシテハ、又別問題デアリマスガ、今日ノ状況テハ此經營ヲ認メルノガ必要デアラウト云フノデ、擔保附社債信託モ其儘ニナッテ居リマスガ、是ハ法律ガ制定サレマシタラ、嚴格ナル意味ニ於ケル信託デハナルナルノデアリマス、故ニ一般信託ノ

業務ハ減ジマスガ、今後信託ノ業務デナイ隨意業務ニナルモノニ付テハ、今日迄事實營ンデ來テ居ルモノデ、將來繼續

シテ營マシメルノガ公益上宜イト認メ、又銀行ニ於テモ差支ナイト認メタモノニ付テハ、一項ヲ加ヘマシテ、從來信託

業務ト云フ事ニナッテ居タノガ、特別銀行ノ方ニ掲ゲテアリマスレバ、御質問ニ應ジテ御答ヲ致シタノデアリマス、三銀

行ニ付テハ大體同ジデアリマスガ、其他ニ御質問ノ點方

ヲ繼續シタイト思ヒマス、私此席カラ一寸司法當局ニ御尋シテ置キタイ、信託法ノ上ニ事業經營ト云フコトヲ認メラレテ居ルカドウカト云フコトヲ疑問トシテ居ル者ガアルヤウデアリマスカラ、之ニ付テ御説明ヲ願テ置キタイ、第三十四條ノ理事又ハ之ニ準ズベキ者ノ連帶責任ノ解除ノ場合ガ定メラレテ居ナイ、是ハ將蓄銀行其他ト横衝ヲ失シテ居リハシナイカト云フ疑問ヲ持テ居ル人ガアルヤウデアリマスカラ、此ニ付テ司法當局ノ意見ヲ御聽シタイ

○山内政府委員 第一條ニ信託ノ本義ヲ明ニ致シテ居ルノデアリマス、只今委員長カラノ御質問ノ問題、之ニ付テハ私モ他カラ質問ヲ受けテ居ルノデアリマスガ、第一條ニ事業信託ト云フ文字ガ無イ結果、事業經營ガ出來スカノヤウニナルカラ、之ヲ改メテ財産ノ管理、若クハ處分、又ハ事業ノ經營ト云フコトニシテハトウカト云フ話モ聞いて居リマスガ、初メ司法省ニ立テマストキニハ、サウ云フ文字ニアツノデアリマス、所ガハ甚ダ不都合ナ文字デ財產ノ管理處分又ハ事業ノ經營ト云フコトニナルト、財產ノ管理處分ト云フコトト、事業ノ經營ト云フコトハ、全ク別ナ事ニナルノデ、信託、或ハ財產管理處分ヲスルモノト、事業ノ經營ヲスルモノト二ツニ分レルコトニナリマスルト、信託ノ本旨ニ反スルノデアリマスカラ、一條ハ司法省ノ前ノ改メテ一定ノ目的ニ從ヒ、財產ノ管理又ハ處分ヲ爲シタル事業ヲ新ニ入レマシタ、ソレカラ信託ニ關スル業務ト云フノガ本義デアッテ、サウスルト一定ノ目的ト云フ中ニハ、或ハ幼者ヲ扶養スルトカ、或ハ貧民ヲ救助スルトカ、或ハ事業ノ經營ヲスル爲ニ財產ヲ移轉シ、其管理處分ヲ依託スルメルノデアリマス、其信託行為ニ依テ定マツタ一定ノ目的ニ從ヒ、財產ノ管理處分ヲ爲スト云フノガ信託デアルカラ、御質問ハ先ツ信託法、信託業法ノ質問ニ止メテ、信託法、信託業法ノ方カラ進メテ行ツテ、所得税外四件ハ後ニシク方ガ混同シナイデ宜カラウト思ヒマス——マダアリマシタ

ト云フコトハ疑ノナイコトデ、立案ノ趣意モ其處ニ在ル
責任、貯蓄銀行等ニ於キマシテ、會社ノ取締役ガ其在任中ノ
債務ニ付テ連帶責任ヲ負フト云フコトニナツテ居ル、其連帶
責任ハ其取締役ノ職ヲ罷メタ後一年繼續スルヤウニナツテ
居リマスガ、其債務ニ付テノ連帶ト云フノハ、貯蓄銀行ガ負
擔シテ居ル債務ニ付テ直ニ連帶責任ヲ負フ、恰モ合名會社
ノ社員ガ會社債務ニ付テ連帶責任ヲ負フノト、稍々趣旨ニ
於テ同ジテアリマス、ケレドモ此三十四條ハソレトハ違フ
ノデアツテ、法人タル受託者ガ信託ノ契約ニ反シテ、即チ信
託ノ目的ニ反スル行爲ノアツトキノ損害賠償ノ責任ニナ
ルノデアリマス、即チ契約違反ノ損害賠償デアリマス、此損
害賠償ニ付テ規定ガ無イト、任務違反ト云フ場合ニ、會社ノ
理事者、會社ニ對シテノミ責任ガ有ツテ、外部ニ責任ガ無イ、
詰リ會社理事ノ間ノ委任契約ニ依ツテ、善良ナル理事者ト
シテ仕事ヲ爲スペキ者ガ之ニ違反シテ損害ヲ生ゼシメタナ
ラバ、結局會社ニ對シテ直接ノ損害賠償ノ義務ハアルケレ
ドモ、外部ニ對シテ無イト云フノハ變則デアル、故ニ商法ノ
中ノ取締ニ付テノ内部責任ダケデハ足ラナイカラ、損害ノ
責任ニ付テハ外會ニモ責任ヲ負ハシテ居ルノデ、其損害賠
償ノ責任ハ株式會社ニ於テモ、普通ノ債務トシテ、私ハ商事
債務ト解釋致シマスガ、結局五年ノ時效ニ依ツテ其實任ハ消
滅スル事ニナリマスガ、是ハ全クソレト同様ニ、法人ノ理事
者ガ任務ニ反スル行爲ヲ爲シテ、外部ニ對シテ損害ヲ生ゼ
シシメタナラバ、其者ニ對シテ直接ニ責任ヲ負ハスノデアル、
其會社ト連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズルト云フ事ニナツテ
居ツテ、不法行爲ニ近イヤウナ規定ニナツテ居リマスカラ、貯
蓄銀行ノ取締役ノ責任ト此受託者タル法人理事者ノ外部責
任トハ餘り事柄ガ遠フ、之ヲ貯蓄銀行法ニ併セテ在任中ノ
債務ニ付テ二年間責ニ任ゼシメント云フヤウナコトハ、全
ク三十四條ト趣旨ガ違フコトニナルノデアリマス、故ニ三
十四條ハ權衡ヲ得ナイト云フ非難ガ外部ニアルヤウデアリ
マスガ、是ハ要ラナイト考ヘテ居リマス
○大島委員 一つ伺ヒマスガ信託ノ十二條デアリマス、許
害取消權ガ認メテアル、是ハ民法ノ訴害行爲ト取消行爲ヲ
債權者ニ認メタモノデアリマスガ、少シ是ハ不穩當ノヤウ
ニモ思ハレル、其理由ハ債權者ガ債權者ヲ害スル事ヲ知ッテ
爲シタル場合ニ委託者ノ方ノ惡意ダケデ、受託者ガ善意デ
アツテモ、此取消權ハ認メラレテ居ル、信託會社ニ委託シマ
スル場合ニ善意デアルト云フコトハ大部分認メラレマスガ
受益者ト云フノガ本則ニナツテ居ル、信託ハ三面行爲デアリ
マスカラ、受託者ノ惡意ノトキハ取消ヲ認メル、受託者ト委
託者ノ間ガ惡意關係ガアレバ取消權ヲ認メテ、ソレデ正當

○内政府委員 信託ト云フコトハ御承知ノ通り財産權ノ移轉デアリマス、即チ其法律行爲ハ委託者ノ財産ヲ受託者ニ移轉スルノガ法律行爲デアリマス、即チ此移轉ノ法律行為ニ依テ、受託者ノ財産ガ減少スルト云フコトニナルト、民法ノ原則ノヤウナ此場合ニ於テハ、相手方即チ受託者ノ惡意ナリシ場合ニ於テノミ廢寵訴權ト云フモノガ行ハレル、然ルニ財產權ハ移轉スルケレドモ、受託者ト云フモノハ何等モ利益ヲ得ル所ハナイ、故ニ所有權移轉關係ニ依テ財產減少ノアル場合ニ於テハ、其受託者ノ善意惡意ヲ問ハズ、言申上ゲテ置カナカレバナラヌノハ、受益者ト云フモノハ廢寵訴權ヲ行ハシメル、即チ其所有權移轉ト云フコトヲ效アラシムルト云フコトガ第一項ノ趣意デアリマス、受託者ニ付テハ寧ロ第二項ノ規定ガ然ルノデアリマス、ソコデ一ハ當然其利益ヲ享受スルト云フコトニナツテ居ル、即チ其法律行爲ニハ受益者ハ何等關係シナイ、知ラザル間ニ自分ガ移轉行爲ノ當時、移轉シタ事ヲ知ラザル場合ガアルノデアリマス、而シテ信託ノ法律行爲ガ出來上ルト云フト、受益者アル、斯ウ云フ事ニナルト民法ノ廢寵訴權ノミデハ効キヤウガナイ、ソレハ頗ル不都合デアルト云フノデ、二項ヲ設ケテ而シテ第一項ニ依テ法律行爲ノ取消ガ茲ニ行ハレトルテ云フノガニ項ノ趣旨デアリマス、併ナガラ是ハ信託ト云フモトハ贈與ノ關係デアル、サウ云フ次第デアリマスカラ、サナイ、即チ法律行爲ハ取消ナレテ、信託ノ目的タル財產ハ之ニ返サナナイニシテモ、受益者ノ利益ニハ影響ヲ及ボサイト云フノガニ項ノ趣旨デアリマス、併ナガラ是ハ信託ト云フモトハ贈與ノ關係デアル、サウ云フ次第デアリマスカラ、既ニ受ケタダケノ利益ヲ取ラレタナラバ、其將來ニ未ダ辨濟期ニ至ラザル利益ハ、此訴害行爲ニ依テ起々タ場合デアレバ、是ハ無償ノ利益ヲ受ケタモノデアリマスカラ、寧ロ債權者ノ利益ヲ考ヘテ而シテ將來ノ利益ヲ受益者ニ認メナナイト云フノハ宜クナイガ、此點ニ付テハ民法ノ廢寵訴權ノ規定ニモ私ハ少シ缺點ガアルト思フノデアリマス、贈與シテ居ル、贈與ヲ受ケタ者ハ善意ナラ訴害行爲ハ取消セナイト云フ今俄ニ民法ヲ改正スルコトモ大變デアリマス、廢寵訴權ニ付テハ行クヽヽハ改正シテ、此規定ヲ置イテ其行爲ヲ少クスルノガ宜イカト思テ居リマスカラ、民法ハ今直ニ改正スルノモ考物デアリマスカラ、茲ニ信託法ヲ作ルニ付テハ、ガ、如何デゴザイマスカ

第一項ヲ定メルト共ニ無償ノ利益ヲ受ケルトコロノ受益者ハ、現ニ受ケタモノハ奪ハナイガ、併シ將來利益——贈與ノ利益ヲ返ヘスト云フ事モ決シテ不都合デナイ、モウ一ツハ受益者ガ利益ヲ受ケタル當時、即チ受益者ガ惡意デ以テ利益ヲ受ケタ場合デアレバ、或ハ惡意デナクテモ重大ナル過失ニ依テ知ラナカッタト云フ場合ニ於テハ、既ニ受ケタル利益ハ之ヲ返還セシメル方ガ、債權者ノ利益ヲ保護スル所、以デアルト云フノデ、民法トハ餘程主義モ異ニテ居リマスガ、無償贈與ノ關係ニ於テ其モノハ保護シナイ、債權者ノ利益ニ鑑ミテ保護ガ幾分薄クナルト云フノガ一ツ、受託者ノ善意ヲ間ハズシテ之ヲ廢止セシメル、併シ受益者ハ何等損害ヲ受ケル譯デハナイ、即チソレニ依テ債權者ヲ保護スルコトハ薄クナッタ云フノデ、第一項ガアル、斯ウ云フコトニ御承知ヲ願ヒマス

○白井委員 只今司法次官ノ御説明ニ依ルト、信託法ノ第一條ノ信託ノ定義ハ非常ニ廣イ意味デ、無論事業ノ經營モ信託ニ依テ出來ルト云フコトデアッタと思ヒマス、此間他ノ政府委員ハ、業法ノ第四條ノ一項中ノ事業ノ經營ハ、業法ニ於テ之ヲ認メナイト云フ御説明ガアッタヤウニ御承知シテ居リマス、サウシマスト信託業法ニ依ル株式會社ハ、事業ノ經營ハ認メルコトガ出來ナイガ、ソレ以外ノモノニ付テハ事業ノ經營ヲヤッテ差支ナイト云フコトニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○山内政府委員 此事業ノ經營ノ事デアリマスガ、是ハ吾々ハ特ニ考ヘタノデ、個人信託デアリマスルト、例へバ伯父サンガ子供ノ爲ニ營業ヲスルト云フ場合ニ、一々其子供ノ代理人トシテ營業スルコトモ困難デアル、事實ハ殆ド其名義人ガ全權ヲ握ッテ、營業ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ場合はハ詰リ信託シテ例ヘバ子供デハ到底責任ヲ以テ營業ヲサセルノニハ工合ガ悪イカラ、伯父サン即チ弟ニ財産ヲ信託シテ、而シテ子供ノ爲ニ其財産ヲ管理セシメル、而シテ商賣ヲ續ケテ行クト云フヤウナ事ハ頗ル例モ多イヤウデアリマス、是ハ實際未成年者ノ爲ニ法定代理人ガ商業ヲハ極テ便利デアル、信託法其物ニ於テハ個人信託ハ原則トシテ之ヲ禁止シナイ積リデアル、業法ニ於テ之ヲ禁止スルノハ業法ノ精神デアル、是ハ特別ニ事業經營ヲヤラセルコトガ善イカ悪イカト云フ考慮ノ下ニ、大藏當局ガ定メラレタモノト思ヒマス

○黒田政府委員 業法ニ於キマシテ事業經營ノ信託ヲ認メナカッタ云フコトハ、前回ニモ既ニ一應申上ゲタ積リデア

リマスガ、只今司法次官ノ御答辯ノヤウニ、信託法ニ於テハ、財産管理條文ノ範囲ニ於ケル利用ト云フモノガ、信託法ニ認メラレテ居ルト云フ事ハ、前ニモ申上ガタ積リデアリマスガ、業法ニ依ッテ之ヲ營業ヲヤルニ於テハ、前ニモ申上ガマシカ通リ、他人ノ財産ノ移轉ヲ受ケテ、名義ヲ自分ノモノニシテ、管理運用スル場合ニ於テ、信任ニ基イテ商賣ヲスル事ニナリマス、危險ナ仕事ト云フコトハ之ヲ避ケタイ、延テハ他人ノ——信託者ニモ影響ヲ及ボスト云フコトハ前ニモ申上ゲタノデアル、所謂事業モ或ル範圍ノ事業ト云フ解釋ニ依リマス、例ヘバ貸家ヲ造ツテ之ヲ信託シテ其貸家ヲ人ニ貸シテ家賃ヲ取ルト云フヤウナコト、或ハ田畠ヲ信託シテソレ小作人ニ貸シテ、小作料ヲ取ル、云フヤウナコトモ或ル意味ニ於テ利用ト云フコトモ言ヒ得ルカモ知レマセヌガ、漁業法ニ於テモ認メテ居ル、或ル範圍ノ事業ハ認メルノデアリマスガ、鐵山ヤ鐵業權ヲ信託シテ鐵山ヲ經營スルトカ、漁業權ヲ信託シテ漁業ヲ經營スルトカ、斯ウ云フモノハ大危險ガ伴ウモノデアリマスカラ、危險ノ結果ハ隨て他ノ信託者ニ影響ヲ及ボスコトデアリマスカラ、之ヲ禁ジタイト云フ越旨カラ出來テ居リマス個人ノ信託ノ場合ハ其越旨ハ只今司法次官ノ御説明ノ通りデ、個人關係ハソレガ伯父サンデアルトカ、兄弟デアルトカト云フ様ナ關係デ、之ヲ信託スル場合モアラウト思フ、會社トシテ廣く財産ノ信託ヲ受ケテ營業ヲ致ス者ニ於テハ、之ヲ禁ズル事ガ至當デアラウト云フ越旨カラ、業法ニ於テハ之ヲ認メナカッタノデアリマス、ソレニ實際ニ於テハ外國ノ例ヲ見マシテモ、所謂事業ノ信託ト云フヤウナモノハ、實際ニ於テハサウ行ハレルモノデハナイ、會社ガ萬般ニ事業ノ信託ヲ受ケルト云フヤウナコトモ、到底是ハ不能ノコトデアラウト思フ、先ニモ申上げタ通り、理論上ト致シマシテハ不都合デアリマスカラ、認メナカッタ次第デアリマス

○指田委員長 一寸今ノ點ニ關聯シテ大藏當局ニ伺フテ置キタイト思ヒマス、第四條ノ信託財產ノ列記シテアリマスル中ニ、動產又ハ船舶立木ト云フヤウナモノガ除カレテ居ル、動產ト申シマシテ特ニ私共ノ考ヘテ居リマスコトデハ、商品ニ或ハ輸出貿易ニ關係致シマスル生絲デアルトカ、信託スル必要モアル、又甚シキ危險フ感ジテ居ラヌヤウニモ思ハレル、更ニ立木ノ如キニ至リマシテハ、日本ノ時勢ノ關係カラ申シマシテモ、大ニ此事業ノ發達ヲ期待シテ居ラウナ向モアルノデアリマス、是等モ亦信託財產ニ加ヘ

ルヤウナ向モアルノデアリマスガ、是等モ亦信託財產ニ加ヘテ差支ナイカノ如キ感ジモアルノデアリマスガ、是等ヲ除キマシタ理由ヲ承テ置キタイト思ヒマス

○黒田政府委員 只今御尋ノ立木ハ其地ノ定著物ノ中に包含シテ居ル積リデアリマス、實ハ元ハ立木ト云フ文字ヲ現シテ置キマシタガ、此中ニ包含シテ居ルカラ特ニ書ク必要ハナイト云フコトテ除カレマシタノデアリマシテ、鬼ニ角此中ニ包含シテ居ル積リデアリマス、ソレカ船舶ニ付キマシテ御意見モゴザイマスルガ、吾々ノ認メテ居ル所ニ依リマスト云フ、船舶ヲ信託シテ運送業ヲ致サケレバ、信託ノ目的ヲ十分達スル事ハ出來ナイモノニアリマス、船舶ヲ信託スルコトハ此運送業ヲヤッテ貨フト云フコトニナルノデハナカラウカ、サウナリマスト云フ、是等ニハ隨分危險モ往々ニシテ件件コトモアリマスシ、所謂一般ノ此事業ト云フコトヲ認メナイ所カラ致シマシテモ、船舶ヲ認ムルコトハ如何カト云フコトデ、船舶ハ特ニ除イタノデアリマス、ソレカラ動產ニ付キマシテハ、御話ノ通り受賣商品デアラウト思ヒマスガ、商品ニナリマスト云フ、今日間屋業トシテ間屋ガ自己ノ物ニ非シテ取引ヲスルト云フコトガ、實ハ殆ド信託ノヤウナ効キヨ致シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ信託ニ致シマスレバ、御話ノヤウニ所謂從來信託會社ガ致サナケレバナラスト云フコトニナルノデアリマシテ、是モ前申ス通り間屋ト云フモノデ十分ニ今日ソレノ目的ヲ達シテ居ルモノト認メマシテ省キマシタ次第デアリマス

○指田委員長 一寸今ノニ續イテ御尋不致シマス、有價證券ヲ假リニ信託致シマシタナラバ、結局其右價證券ニ依テ、例へバ現ニ行ハレテ居ル鞘取デアリマスガ、有價證券ヲ或人ノ名前ニ書換ヘテサウシテ鞘取ヲヤッテ居ル、是ハ一般銀行業者ガ現ニ行ヒテ居ル方法デアリマスガ、是ハ矢張一種ノ信託ナルモノト私ハ考ヘテ居リマス、有價證券ハ常ニ仲買人ノ名前ニ書換ヘテ、而シテ鞘取ト云フ仕事ヲヤル、是ハ一般銀行ニモ常ニ行ハレテ居リマス事デアリマスガ、有價證券ノ取扱商品トノ取扱ノ上ニ、何カ少シ權衡ヲ得ナイヤウナ感ジガアリマスノデアリマス、或程度ノ確實ナル商品、或制限ノ下ニ一般商品トハ申シマセヌケレドモ、日本ノ財界ニ有價證券ヨリ尙ホ確實デアルト私共ノ考ヘマス商品ニ付キマシテハ、或制限ノ下ニ有價證券以外ノ商品ヲ加ヘルコトモ必要ガアルヤウニ感ジマスカラ、是ハ御者置キ願テ持ツタ事モアルノデ、併シ事業ト云フ事モ先程説明申シタヤウニ事業ト云フモノハ甚ダ曖昧ナノデアリマシテ、シタヤウニ事業ト云フモノハ甚ダ曖昧ナノデ居リマスカ

○黒田政府委員 御尤デアリマスガ、實ハ四條ニ事業經營得ルヤウナ狀況デアリマスカラ、其事業經營ヲ認メナイト致シマシテモ、事業經營ハ更ニドウ云フモノデアルカト云フコトマデ言ハナケレバナラヌコトニナツテ非常ナ困難ナノデソレ故ニ幸ニ色々御尋モアリマシテ、茲ニ辯明モ致シテ居ルノデアリマス、之ニ依テ十分ニ法案ノ趣旨モ明カリサレルコトヲ得ルデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス

○鈴木(久)委員 私ハ此立法ノ一般觀念ニ付テ一寸御尋ヲシテ置キタイト思ヒマス、今日當業者ハ此案ニ接シテ非常ニ悲鳴ヲ擧ゲテ居ル、ソレハ何カト云フ、事業範圍が大變窮屈ニナツタ云フ事デアリマスガ、今日取扱テ居ル所ノ仕事ニ非常ニ此法ニ依テ制限ヲスルト云フ事ハ、所謂當業ノ自由ヲ妨害スルト言ヒテハ語弊ガアルカ知リマセヌガ、兎ニ

角非常ニ制限ヲ附スルコトニナル、今日ハマダ澤山ノ信託會社ガアリマスケレドモ、マダ外國ニ較ベテ幼稚デアッテ、現ニ此國際信託ノ如キ立派ナ會社モ、外國ノ事モ能ク調べテ理想的ノ發達ヲ遂ゲタイト云フ希望ヲ持テ居ル、此國際信託ノ様ナモノニアッテモ、株ノ多クハ十二圓五十錢拂込ノモノガ、九回カ十四シカシテ居ラス、實ニ立派ナ世界的ノ會社デスラ、ソンナ狀態デアル、其他推シテ知ルベシデアル、故ニ十分ニ仕事ヲサセテモサウ云フ結果ヲ得テ居ル、ソレヲ茲ニ非常ナ制限ヲ附スル、制裁ヲ附スルト云フコトハ、餘程考慮ヲ要スルコトニアッテ、即チ事業範圍ト云フモノハ、最初ノ中ハ立法ノ初ニ當テ尙更殊ニ廣クシテ置イテ、今日ヤリツ、アル所ノ仕事ヲ殆ド網羅スル位ニ事業ノ範圍ヲ廣クシテ置イテ、サウシテ弊害ヲ取締ル方法ハ別ニ攻究スルト云フコトニシテ置イテ、其法ノ實行ニ於テ更ニ實際ノ成績ニ徴シテ、弊害ノ見遁スペカラザルモノガアルナラバ、更ニ方法ヲ變ヘテ往クト云フコトハ差支ナイガ、此法ヲ制定スルニ當テ餘程考慮ヲシナケレバナラヌ事ハ、當業者ト云フモノハ法ノ初ハ非常ニ窮屈ニ感ズルコトハ一般ノ法律ガサウ云フコトアリマス、旁々成ベク事業ノ範圍ハ廣クシテ置クト云フコトニシテハ如何カト思フノデアリマスガ、モウ一つ何カ特權デモアル、此法ヲ制定シタ爲ニ、今日ノ信託會社ニ何カ利益ナ事ガアル、何カ特權ヲ與ヘル、特定ノ利益ガアルトカ何トカ云フコトガ付イテ居レバ、如何ナル制限デモ、如何ナル制裁デモ、ソレハ忍バコトガ出來ル、此法案ヲ總テ通覽シテモ、何等今ノ信託會社ト云フモノニサウ信託會社ノ利益ニナルト云フヤウナ事ガアリマスカ、スカ、能ク調ヘマセ又故ニ其點モ承テ置キタノデアリマスガ、孰レノ會社モ餘り事業ヲ廣クスルト云フト弊害ガ除ケナイト云フコトガ——弊害ノ起リ易イト云フコトモアルカモ知レマセヌ、併ナガラ此弊害ト云フコトハ此法ヲモ、ト嚴重ニシテモ、官業ニモ民業ニモ如何ナル處ニモ此弊害ハ免レナイ、故ニ此事業ノ初ニ當テ、未ダ信託事業ノ發展セザル日本ニ於テハ、成ベク當業者ニ自由ヲ與ヘテ自由ニ手腕ヲ揮ハセルト云フコトガ、却テ斯業ノ發展ヲ遂ゲル所人ノ信任ニ基イテ他人ノ財産ヲ己ノ名ニシテ管理處分シテ置キタイ

行カウ、即チ銀行ガ唯金ヲ預ルヨリモ、一步進シニ其人ニ代
テ仕事ヲシテ行カウト云フコトヲ本業トスルノデアリマ
シテ、サウ云フ風ナ性質ノモノニナリマスルト、色々ノ仕事
ヲ兼ヌルト云フ事ハ極テ不適當ニナルノデアリマス、銀行
ニ對シテ色々ノ仕事ヲ禁ジテアルト同ジク、之ヲ廣ク許ス
ト云フコトハ極テ不適當ニナルノデアリマス、今日ノヤウ
ナ他人ノ信任ニ基イテ固有ノ信託業ヲ營ンデ居リマセヌモ
ノナレバ、ソレハ廣ク如何ナルモノデモヤッテ宜シイノデア
リマスガ、手續固有ノ信託ヲ引受ケルト云フコトニナリマ
スルト、サウ云フ會社ニ對シテ廣ク業務ヲ許スコトガ出來
ナイト云フコトハ、銀行ニ於テモ同様デアリマス、之ニ對シ
テ今度會社ノ特權ガ無イト云フ御詫デアリマスガ、所謂信
託ヲ受ケルト云フコトガ非常ナ特權デアリマス、此會社ニ
トカ、或ハ手形割引デアルトカ、預金ヲ貸付ヲスルトカ云フ
限ツテ信託ヲ受ケルノデアッテ、他ノ者ハ信託ヲ受ケルコト
ガ出來ナインオデアリマスカラ、信託ヲ受ケルト云フコトハ
非常ナ特權デアリマス、所謂銀行ノ業務ハ爲替業務デアル
トカ、或ハ手形割引デアルトカ、預金ヲ貸付ヲスルトカ云フ
コトハ銀行ニ限ツテアル、是ガ銀行ノ特權デアリマス、或ハ
十圓未満ノ複利ヲ預金ニ受ケルト云フコトハ、貯蓄銀行ノ
限ツテアル、是ガ貯蓄銀行ノ特權デアルト同ジク、信託ヲ受
ケルト云フコトハ、信託會社ニ取ツテ非常ナ特權デアルト考
ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ初ニ廣ク許シテ置イテ、弊害ガ
アッダナラバ、後ニ之ヲ止メテ行ツタナラバ、宜イデヤナイカ
ト云フ御詫デアリマスガ、今迄ノ立法ニ於テモ、多クハサウ
ケルト云フコトハ、信託會社ニ取ツテ非常ナ特權デアルト考
ヘテ居ルノデアリマス、又例ヘバ近イ例ガ昨年御
協賛ヲ經マシタ貯蓄銀行ノコトニ付テモ、初メ時蓄銀行ノ
條令ハ相當嚴シク、所謂貯蓄銀行ノ本領ヲ發揮シテ居、タノ
デアリマスガ、後程是ガ非常ニ緩メラレマンシク爲ニ、御承知
云フ方法デハナインオデアリマス、又例ヘバ近イ例ガ昨年御
ノ通り貯蓄銀行ノ本質ヲ忘レテ色々ノ弊害ガ生ジタノデア
リマス、ソレ故ニ之ヲ本質ニ立戻ラセナケレバナラス、改正
シテ業務ヲ制限シナケレバナラヌト云フコトハ、明治三十一
五年六月頃カラ唱ヘラレ、一度ハ議會ニモ法案ガ提出サレタ
ノデアリマスガ、中々一タビ擴メタ事ヲ縮メルト云フコト
モ困難デアリマス、無盡業ノ如キハ或ハ比較ニナラヌカモ
知レマセヌガ、色々ノ弊害ガアリマシク爲ニ、數年前ニ立法
漸ク昨年ニ至テ達スルコトガ出來タト云フヤウナ次第デ、
一タビ擴メタ事ヲ縮メルト云フコトハ、從來ノ例ニ徴シテ
シテ、其爲ニ色々ノ惡い者ガ淘汰サレマシテ、健全ニ漸次發達
ニ赴イテ來タ、昨年是モ御協賛ヲ經テ、其業務ノ範囲ヲ擴メ
タト云フヤウナ次第デアリマス、サウ云フ風ニ其本分ヲ十
分ニ發揮シ得ルヤウナ堅實ナ會社ガ出來マシタ上ニ、更ニ

其時ノ經濟状況ニ應ジテ又考慮スルト云フコトハ是ハ別問題デアリマスルガ、先づ主義トシテ初ニ廣クシテ置イテ段落狭メルト云フ意義ハ、ドウモ從來ノ例ニ徴シテモ困難デハナイカト考ヘル、況ヤ信託會社ノ如キ、他人ノ信任ヲ受ケテ業務ヲ營ムモノニ於テハ、相當此制限ヲシテ行クト云フコトハ當然ノ事デアリマシテ、極ク通俗ニ考ヘマシテモ、自己ノ財産ヲ人ヲ信任シテ渡ストキニ、其者万個人デアリマシテモ、色々危険ナ業務ヲシテ居ル者ヨリモ、堅實ナル人ニ信託ヲスルト云フコトハ人情デアリマス、ソレ故ニ會社ヲシテ危險ナル業務ヲ營マシメズ、堅實ナルモノニ致スト云フコトハ當然必要ナル事デハナイカト考ヘテ居リマス〇大島委員　此範囲ヲ非常ニ限定サレテ居ル結果、銀行業者ヲ兼業サセナイト云フノハドウ云フ譯デアリマスカ〇黒田政府委員　銀行業ト信託業トハ本質ニ於テ相違ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレハ假ニ別ト致シマシテモ、銀行業ヲ兼ネマスルト、信託ヲ受ケタ所ノ財産ヲ、銀行ノ事業、所謂自己ノ投資ニ之ヲ用ヰント云フコトニナリマシテ、往々危険ガ伴フノデアリマシテ、信託ノ財産ヲ自己ノ銀行ノ業務ノ爲ニ用ヰル場合ニ於テハ、ソレカラ生ジタ利益ノ如キモ、場合ニ依テ非常ニ利益ガ生ズレバ、之ヲ銀行ノ本業ノ方ニ移ス、即チ其會社ノ利益ニシテシマッテ、利益ノ少イモノヲ之ヲ却テ信託財産ノ所屬ニスルト云フ風ナ事モ往々ニシテ行ハレルノデアリマス、亞米利加ノ如キモ御承知ノ通り、銀行ヲ兼不テ居ル者ガ非常ニ多イノデアリマスガ、之ヲ特別ナル事由ノ下ニ委シテ、銀行業者ノ方ハ非常ナ制限ヲ設ケタ爲ニ、信託業者ガ銀行業者ノモノヲ奪フタモ云フ事モ聞イテ居リマス、是等ノ破産シタ會社ニ就て見マシテモ、銀行ヲ兼ネテ居ル者ニ破産シタ者ガ多イト云フコトヲ聞イテ居リマス、破産シタ者ガ多クハ銀行業ヲ兼ネテ居ル、信託業ノミヲ營ンデ居ル者ニハ過ガ割合ニ少イト云フコトヲ承知シテ居ルノデアリマス、是ハ銀行業ヲ兼ネマスト、ドウシテモ銀行ノ方ノ仕事ニ繙テラ使ヅテ、サウシテ色々ノ貸出ニ之ヲ使フト云フ爲ニ、サウ云フ危険ガ生ズルコト、考ヘテ居ルノデアリマス、ソレハ實際ノ上カラ申スノデアリマスガ、理論ノ上カラ申シマシテモ、信託會社ハ他人ニ代ツテ所謂委託者ニ代ツテ其人ニナシテ自分ノ仕事ヲリマスカラ、此一ツノモノハ一緒ニスルト云フコトハ、理論ノ上カラ申シマシテモ不適當デアリマスシ、又實際ノ上カラ

ラ申シマシテモ、各種ノ弊害ヲ生ズルコトハ前ニ申シタ
通リテアリマスカラ、此兼業ヲ認メナカッタノデアリマス
ガ、唯擔保附社債信託業ヲ認メテ居ルカト云フ御話ハ、先刻
モ申上ゲマシタガ、成程擔保附社債信託ノコトヲ銀行ノ兼
營ヲ禁止スルコトガ、主義一貫スルコトニナルカモ知レヌ
ト思ヒマスガ、何分今日ニ於キマシテハ前申ス通り銀行ダ
ケデアリマシテ、銀行以外ニ擔保附社債信託ヲ營ンデ居ル
會社ガナイ、直ニ銀行ノ兼營ヲ禁ジマスト其會社ガ無クナ
リマス、然ルニ銀行以外ニ擔保附社債信託ヲ營ム適當ナ會
ガ出來、今後信託會社ガ發達シテ來マスレバ別問題デアリ
マスガ、今日ノ狀況カラ見マヌト俄ニ銀行業者ニ其兼營ヲ
禁止スルト云フト、非常ナ不都合ヲ生ズルヤウニ考ヘルノ
デアリマス其故ニ是ハ例外ハ致シテ認メ居ル次第アリマ

○上田委員 一寸黒田サンニ伺フテ置キタインデアリマス
ガ、只今ノ商品ニ對スル委託ノ事デアリマス、商品ハ問屋業
ノ商賣ト抵觸スルト云フ御話ガアリマシタガ、若シ商品デ
間屋業ト云フ商賣ト抵觸スルト云フナラバ、此公債社債株
券ノ如キモ、矢張問屋業トシテ營業ラシテ居ルモノニアリ
マス、是ト同ジヤウニ株券ノ如キ問屋業者ニ對シテハ影響
シナケレバナラヌ、獨リ商品が間屋業ト云フ商賣ト抵觸ス
ルト云フナラバ、株券ノ如キモ抵觸シナケレバナラヌ、商品
ガ假ニ信託ガ出來ナイトシマシテモ、商品ニ對シテ資本ノ
運用貸付ガ出來ナケレバナラスト思ヒマス、第十一條ノ資
金ノ運用ニ付テ其商品ニ對スル貸付ガ脱ケテ居ル、又土地
ニ對シテ信託會社ガ自カラ所有スルコトガ出來ナイト云フ
コトハ甚ダ遺憾ト思ヒテ居リマスガ、總テ貸付資金ノ運用ニ
對シテ商品ノ貸付ヲシテアル場合ニ、經濟界ノ變動ニ於キ
マシテ、銀行ソレ自身ガ融通ノ出來ナイ場合ガアリマス、サ
ウ云フ場合ニモ信託業會社ハ相當ノ資金ヲ投ジテ、是等ノ
商品ノ救濟ヲスルコトガ出來ナイコトニナリマスト、經濟
上一方ニ金融ノ逼迫ヲ來シ、一方ニハ資金ガダブツイテ居
ルト云フ處ガアリマス、サウ云フ場合ハ矢張信託業者ト雖
モ、商品ノ資金ノ運用ガ出來ルコトニナリマスト、經濟上ノ
調節ヲスル上ニ於テ非常ニ便宜アラウト思ヒマス、其商
品ニ對シテ信託ガ出來ナイ、許サヌト云フコトガ餘程經濟
界ニ偏頗ナ狹キ範圍ニナッテシマヒハセスカト思ヒマス、其
邊ノ説明ガ私ハ今日初テ聽イタノデアリマスルケレドモ、
今日ノ御説明ニハ十分ニ諒解スルコトガ出來ヌノデアリマ
ス、其點ノ御意見ハ如何アリマスカ
○黒田政府委員 御尋ノ初ノ點ガアリマスルガ、商品ノ信
託ヲ認メナカッタノハ、問屋業ト抵觸スルカトアルト云フ
コトノ御尋デアリマスガ、實ハサウデナインデアリマス、問

屋業ト抵觸スルガ故ニ認メナイト云フノデハアリマセヌ、
一方ニハ問屋ノ業ニ依リマシテ相當目的ヲ達シハセヌカト
云フコトヲ申上ゲタ、信託ト問屋業トハ勿論別個ノモノデ
アルト謂ハナケレバナラヌ、商品ノ信託ヲ何故ニ認メナカッ
タト云フコトニ付キマシテハ、前ハ申シマシタヤウニ、商品
ノ信託ハ、ソレニ依テ賣買ト云フヤウナ商賣ヲシナケレバ
ナラヌノデアリマス、其點ガ信託會社ニ適當デナイト云フ
考カラ認メナカッタ云フコトハ前ニ申上ゲタノデアリマ
ス、有價證券等ニ付キマシテハ、其有價證券ト云フ即チ子供
ノ爲ニ親ガ青年ニ達スルマデ自己ノ持ツテ居ル公債其他ノ
有價證券ヲ信託シテ子供ノ爲ニ持ツテ行ツテ貲フト云フコト
モアリ得ルノガアリマス、強チ有價證券ヲ信託シタカラト
云フテ有價證券ノ賣買業ニナラヌノデアリマス、サウ云フ風
ナコトニナリマスレバ所謂業務ノ方法種類ヲ認可シマスル
際ニ相當ナ制限ヲ設ケマシテ、左様ニ廣イ仕事マデハ認可
ヲ致サナイ積リデアリマス、ソレカラ十一條ニ商品ヲ擔保
ニ貸付ヲ認メナカッタ理由ニ付キマシテハ、前ニ屢々申シマ
シタ通り信託會社ニナリマシテ他人ノ信任ヲ受ケテ財產ヲ
引受ケルコトヲ本業トスル會社ニナリマシタ以上ハ、成ベ
ク危険ノ伴フ仕事ヲサセタクナイ趣旨カラデ、往々商品ノ
擔保ノ貸付ハ銀行ニ於キマシテモ失敗ガ多イノデアリマ
ス、商品ノ價格ノ變動、物質其物ノ變化等ニ依リマシテ、商
品ノ擔保ノ貸付ト云フコトハ餘程危險ヲ伴フ仕事ト考ヘル
ノデアリマス、其故ニ危險ヲ伴フ仕事ヲ成ベク認メナイト
云フ趣意カラ致シマシテ之ヲ認メナカッタノデアリマス、自
ラ其等ニ對スル金融ハ他ノ方面ニ致サセルノガ至當デア
ル、信託會社ガ其任ニ當ルコトハ不適當デアラウト考ヘテ
居ル次第アリマス

○上田委員 ソレデハ伺ヒタインデアリマス、銀行業者ノ
有價證券ニ對スル貸付ノ危險程度ト、商品ニ對スル貸付ノ
危險程度ノ御調査ニナッタ歩合ガアリマスカ、ソレヲ伺ヒマ
セヌト、商品ダケガ危險デアルト云フ斷定ヲ吾々ハ信ズル
譯ニ往キマセヌ

○指田委員長 上田君ドウデアリマスカ、多少御意見ノ違
ヒモアルヤウデアリマスカラ、適當ノ機會ニ政府委員ト懇
談シテ見タイト思ヒマス、其邊ニ打切、或キマス――第十八
條ニ私ハ一寸御詳致シマス、十一條ノ資金運用テ矢張公債
社債又ハ株式ノ應募引受又ハ買入トアッテ、賣買ヲ許サヌ、
今ノ御説明ニ依テ成ベク商賣ヲサセタクナイト云フ御越
意デ、危險ヲ避ケタイト云フ事デアラウト考ヘマスガ、サウ
ナリマスト例ヘバ今迄信託會社ガ國際仲買人ニナッテ、國際
市場ニ公債ノ賣買ヲヤッテ居リマス、斯ウ云フ事ハ當然信託
會社トシテヤルコトガ出來ヌコトニナルノデアリマスカ、

實際問題ニ觸レタノデアリマスガ、其點ヲ伺ヒタイ、其次ハ
第十一條ノ三ニ「不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團
ヲ抵當トスル貸付」トアッテ質權デアルトカ或ハ賣渡擔保
ハ認メナイ、特ニ抵當權ニ制限シタノハドウ云フ意味デア
ルカ、此抵當ト云フ文字ヲ擔保ト云フ廣イ意味ニ直シタイ
ト云フ希望ヲ持ツテ居ル筋モアルヤウデアリマス、之ヲ抵當
權ニ局限シタ理由ハドウデアリマスカ、其次ハ第七條ノ供
託金ノ事デアリマス、現在ノ信託會社ガ附則ノ第二項ニ依
テ六箇月以内ニ免許ヲ申請スレバ、五箇年ニ限ツテ第二條ヲ
適用シナイ、資本金ノ制限ヲ受ケナイト云フノデアルガ、同
様ノ意味ニ於テ既設ノ會社ノ多少事情ノ異ナル所ヲ認メテ
アル意味ニ於テ、矢張供託金モ本法施行後五年間ニ適當ニ
命令ノ定ムル所ニ依テ分納スルコトガ出來ルト云フ事ガ
ナケレバ、權衡ヲ得ナイト云フ論ヲ持ツテ居ル人ガ有ルヤウ
デアリマス、之ニ付テノ御意見ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス
○黒田政府委員 御答致シマス、第一ノ御尋ノ信託會社ハ
國債ノ仲買人トナルコトガ出來ナイト云フコトデアリマス
カ、勿論法律的ニ申シマスレバ、仲買人ハ御承知ノ如ク個人
デアリマスカラ、信託會社其モノガ仲買人ナルコトハ出來
ナイト思ヒマス、其場合ニ於テ會社ガ所謂普通業務トシテ
財產ノ取得ノ代理事務ノ委託ヲ受ケテスル場合ハ勿論出来
ル事ト思ヒマスガ、サウデナク自分ガ他人ノ委託ヲ受ケル
コトナク、自ラ賣買スルト云フ事ハ此法律デハ認メテ居ラ
ナインデアリマス、ソレカラ第三號ノ不動產等ヲ主トスル
デアリマスカラ、信託會社其モノガ仲買人ナルコトハ出來
ナイト思ヒマス、其邊ニ打切、或キマス――第十八
條ニ從ツテ使用收益スルノデアリマス、所謂不動產ヲ信託會社
ガ自分ノ手ニ持ツテ、其不動產ヲ使用收益スルト云フ事マデ
モ認メル必要ハナイデハナイカ、普通ニ行ハレル抵當ニス
ル貸付テ十分テハナカラウカト云フ意味カラ、特ニ廣ク擔
保致シマセヌデ、抵當ト云フ文字ヲ用キタ次第アリマ
ス、ソレカラ賣渡擔保ニ付テモ是ハ實ハ同様デアリマシテ、
先づ不動產ニ付テハ法令ニ依リ設定シタ財團ノ場合ハ、是
ハ抵當權ニ限ツテ居リマスガ、不動產ニ付テハ今普通ニ行ハ
レルモノニ付テ、既設ノ會社ニ相當ナ猶豫期間ヲ認メタラドウカ
擔保ニ取ル、貸付ヲ認メル必要ハナカラウト云フ位ナ趣旨
カラ制限シテ居ルノデアリマス、ソレカラ七條ノ擔保ノ供
託ニ付テ、既設ノ會社ニ相當ナ猶豫期間ヲ認メタラドウカ
ト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ施行期日モ今申上ゲマシ
タ通り、來年一月一日ト云フ位ナ考ヲ今日ハ持ツテ居ルノデ
アリマシテ、尙ホ其後ニ六箇月ト云フ事ニモナッテ居リマシ
テ、相當ノ猶豫期間ガアルカラ、其間ニ是ダケノ事ハ相當
ニ爲シ得ルモノニ付テハナカラウカ、又一旦信託ヲ引受ケルト

云フコトヲスル以上ハ、先づ初ニ新シキ會社ニ於テモ、是ダケノ供託ヲシテ置クト云フ原則ヲ取フタ以上ハ特ニソレダケ猶豫期間ガアレバ、既設ノモノニモ特殊ノ事情ヲ認メル必要ハナカラウト云フ考カラ、例外ヲ認メナカッタ次第デアリマス。

○指田委員長　此際私カラ一寸申上ゲタイト思ヒマス、大體論デス、希望シテ置キタイノハ皆サンノ質問ノ要點ヲ綜合シテ見ルト、業法ノ上デ餘リニ制限ヲスル方ニ重キヲ置カレタ爲ニ、何カ業務トシテ營ムモノデアッテモ、個人信託ト同ジヤウニ見ラレテ、此信託業ヲ以テ、今日ノ經濟界ニ於ケル缺陷ヲ補フト云フ趣旨ガ餘リ認メラレナイデ、寧ロ個人信託デ他人ノ財産ノ権利ヲ受ケルノデアルカラ、ソレニ付テハ餘程窮屈ナ商賣デナケレバ出來ヌト云フヤウナ感じガイノデアリマスケレドモ、今日日本ノ財界ニ於テハ、信託業ト云フモノガ漸ク發達シカケタノデアリマスカラ、私共ハ物足リナイ感ガ致スノデアリマス、信託ノ本義ハ無論受託者ニ對シテ相當ノ制限ヲ加ヘルコトハ看透スコトガ出來ナフ擴張シタイトハ考ヘラレヌケレドモ、或程度マデハ財界ノ金融其他ノ方面ノ缺陷ヲ此業法デ補フト云フ位ノ意味ニ於テ、此法カ組立テラレナケレバ餘リ有難味カ少ナイヤウニ感ズル、個人信託ノ制限サレテ居ルヤウナ嫌ガ皆サンノ御質問ニ依ッテモ想像スルコトガ出來ルノデアリマス。——今日ハ此程度ニ止メマシテ、明日ノ午後一時カラ開キマシテ、サウシテ御質問モ必要デアリマスガ、尙ホ或ハ速記デモ止メテ、サウシテ御意見ノアル所ヲ交換シタガ宜クハナイカ知ラント斯ウモ考ヘテ居リマスカラシテ、成ベク其心組ヲ以テ政府當局ニ御考ヲ願ヒ、委員諸君ニ於テモ其積リテ明日ハ勉強シテ、奮ツテ御出席下サルヤウニ御願致シマス。○黒田政府委員只今御希望ガアリマシテ、御希望ノ點ハ謹承致シマシタガ、此法案ガ社會ノ缺陷ヲ補フト云フ事ニ努メズシテ、其制限ヲスルト云フ事ニノミ趨テ居ルト云フ風ニ御思想ヲ懷カレルト云フコトハ、甚ダ遺憾トスルノデアリマス、決シテ左様ナ事ハナインデアリマシテ、信託財產ヲ引受ケマスルトキニ、信託財產ノ他ノ色々ノ方面ノ社會的缺陷ヲ補フヤウニスル、何モ他ノ方面ノ事ヲ特ニ此處ニ掲ゲテアルコトデ制限スル譯ハアリマセヌ、他ノ方面ノ活動ハ此法律ガ認メテ居ルノデアリマスカラ、其點ハ十分ニ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス。

○指田委員長　此位ニ止メテ今日ハ是デ散會致シマス
午後零時四十二分散會